

「プラス思考で」

山手院長がアレルギー講座

療催 小児医療
主催 岩国小児科
の会

「子どもの病気、50人の名医(全国)の一人に選ばれている専門医で「やまて小児科・アレルギー科(光市)院長の山手智夫氏を講師に迎え、岩国小児医療の会主催の「アレルギー講座」が6日、シンフォニア岩国大会議室で開かれ、母親ら30人が聴講した。

山手氏は、3男が苦しんだアトピー性皮膚炎の体験談や食物アレルギーなどについて語り、「アレルギー症状に注意して生活すると悪いものから遠ざかり、体

に良いものだけ取り入れることになる。周囲も健康になり、がんや生活習慣病の予防につながる」と、プラス思考でアレルギーを上手に利用することを訴えた。

山手氏は岡山大医学部卒。国立岩国病院、因島総合病院、土佐清水病院などを経て平成16年、「やまて小児科・アレルギー科」を開院した。

3男のアトピーは、山手アレルギーについて解説する山手氏



氏がアメリカの田舎に転勤したときは発症せず、「環境で治ることを目の当たりにした」が、帰国後に再発専門医から「アトピーは公害病だよ、と言われて納得した」と振り返った。

乳児の食物アレルギーがアトピー性皮膚炎の形で表れることが多く、「アレルギーは環境汚染物質の蓄積と必須物質の欠乏による体の調整機能の変調である」とアメリカ環境医学センターの考え方を紹介した。

アレルギー症状悪化の原因に過労や睡眠不足、空気・土・水の汚染、食品添加物など食物の汚染、活性炭素、ハウスダスト・ダニ・カビ、花粉、腸管内のカビ、アレルギーを起こす食物などを挙げ、食物アレルギー



の治療では腸を整えることを求めた。
その上で、「大切なことは何をどう除くかではなく、何をどう食べるか。アレルギーっ子が体を張って拒否している食物は他の健康な人も避けたほうが無難」とし、「薄味の和食」を薦めた。

同日は食育料理教室を開いている松永敦子さんによるアレルギー対応食の試食もあった。米粉のココアクッキー、じゃがいもニョッキみたらし風で小麦、卵、牛乳を使わないおやつとして「おいしい!」と好評だった。

岩国小児医療の会は乳幼児の病気や事故について子育て中の親たちと共に学び小児医療の現状について理解を深めてもらうとうと平成23年に設立された。小児科、耳鼻科、皮膚科などの医師による講座、乳幼児の事故防止や小児救急法なども学んでいる。

アレルギー対応食を振る舞う松永さん